



【令和2年度第1回心突然死対策講習（ICLS）】

令和2年9月26日

令和2年9月26日（土）自衛隊札幌病院（病院長：大鹿陸将）は、副院長菊池将補を担任官として、自衛隊中央病院、第11旅団、北部方面衛生隊の支援を受け、今年度1回目の日本救急医学会ICLSコースを開催した。

本講習は、「突然の心停止に対する最初の10分間の適切なチーム蘇生を習得すること。」を目標として、認定コースディレクター吉積1佐（前任診療科部長）、本間2佐（小児科部長）以下指導要員17名が、医師・看護師・救急救命士等、院内及び各部隊の受講生12名に対し「心肺停止の認識と対処行動」「BLS（一次救命処置）」「AED（自動体外式除細動器）の安全操作」「心停止時の4つの心電図波形診断」「状況と各自の技能に応じた気道管理法の選択・実施及び確実な気道確保」など実技を主体とした体験型シミュレーションにより指導を行い、最後に心肺蘇生法、心突然死対処等に関する実技試験を行い識能の維持・向上を図った。修了式において担任官は、「習得した技能をいつでも発揮できるよう練度の維持・向上に努めてもらいたい」と訓示し講習を終了した。



訓練開始式・担任官訓示



気道の確保



一次救命処置（胸骨圧迫）



チームでの蘇生処置



心電図波形診断



修了証の授与